

I 妻木晩田遺跡の調査－平成18年度－

1	妻木晩田遺跡の発掘調査計画について	2
2	平成18年度発掘調査の概要	4
3	松尾頭5・6区の発掘調査概要報告－妻木晩田遺跡第19次発掘調査（重点調査）－	7
4	妻木新山地区の発掘調査報告－妻木晩田遺跡第18次発掘調査（内容確認調査）－	16

1 妻木晩田遺跡の発掘調査計画について

妻木晩田遺跡では、発掘調査年次計画に基づき、弥生時代の集落構造を解明するための発掘調査、分布調査を行ってきた。第Ⅰ期発掘調査計画による重点調査^甲は平成18年度で終了するので、これまでの調査の成果と課題に基づき、計画の一部修正を含めた平成19年度以降の調査計画を作成することとした。

第Ⅰ期の重点調査では、「形成期の集落像の解明」、「最盛期の集落像の解明」、「首長層居住域の実態解明」を主な調査課題として、洞ノ原地区（西側丘陵）、妻木山地区、松尾頭地区の調査を行った。調査計画の策定にあたり、第Ⅰ期調査の調査成果を総括した。洞ノ原地区の調査では、環壕の埋没過程が明らかとなったほか、この環壕が同時期の遺構を伴わず空閑地を囲んでいた可能性が高まった。妻木山地区の調査では、丘陵頂部の縁辺に分布する2～3軒の堅穴住居のまとまりが2～3段階の変遷をとげる、という後期後葉の集落構造が明らかとなった（鳥取県教育委員会2003；2006）。

以上のように多くの成果が得られた一方で、それぞれの調査課題について、以下のような未解決の課題も残されていると考えた。

- (1) 中期後葉～後期中葉の居住単位の在り方
- (2) 最盛期における墳墓（首長墓）の様相
- (3) 松尾頭地区の集落構造、特に大型堅穴住居の評価、大型掘立柱建物（第53建物跡）と居住単位との関係、旧小真石清水地区との対比、関連を含めた集落構造の把握
- (4) 斜面部、谷部の土地利用のあり方

そこで、上記の課題を解決することを主な目的として、今後の計画における調査課題を以下のとおり設定した。

- ① 出現・展開期における集落像の解明
最盛期の集落像との比較を通して、居住域の変遷をより具体的に明らかにする。
- ② 墳墓域の実態解明
集落構造との対比を通して、首長像や集落における階層性の実態を明らかにする。
- ③ 松尾頭地区の実態解明
「首長層居住域」としての一面が強調される松尾頭地区について、遺跡全体の中での位置づけをより明確にする。

- ④ 斜面部、谷部の土地利用のあり方の解明
湧水、水場、生産基盤など、丘陵平坦部とは異なる生活空間について明らかにするとともに、古環境復元のためのデータを得る。

なお、上記②については、墳墓が存在する可能性のある地域を広く調査し、未確認である最盛期（後期後葉）の墳墓を探索する必要があることから、「墳墓域の実態解明」を課題とする。また、③については、平成17、18年度の調査地である松尾頭地区を引き続き調査対象地とすることから、第Ⅰ期調査の延長という形で来年度以降行うこととした。④については、内容確認調査として、重点調査に並行して行うこととした。調査方法として、同一地点でのボーリング調査、トレンチ調査を計画している。

以上の経過を経て、平成19年度以降の調査計画を第2表のとおり策定した。

策定にあたっては、妻木晩田遺跡事務所が作成した原案を平成18年9月14日に開催した第13回妻木晩田遺跡発掘調査委員会において議題として提案、協議したのち、事務所内での検討、修正を経てまとめた最終案について、発掘調査委員会の各委員より承認を得た。

（君嶋 俊行）

註

妻木晩田遺跡では、平成14年度以降、調査をその方法と目的に応じて以下のように分類している。

- ・重点調査 既存の調査成果に基づき、妻木晩田遺跡の集落構造の詳細を明らかにするために一定面積で行う調査。
- ・内容確認調査 分布調査の成果を受けて、妻木晩田遺跡の全体像を把握するために行うトレンチ調査。
- ・分布調査 妻木晩田遺跡の現況を把握するために史跡指定地およびその周辺を対象に行う基礎的調査。

文献

鳥取県教育委員会2003『史跡妻木晩田遺跡第4次発掘調査報告書－洞ノ原地区西側丘陵の発掘調査－』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅰ集

鳥取県教育委員会2006『史跡妻木晩田遺跡妻木山地区発掘調査報告書－第8・11・13次調査－』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅱ集

第2表 妻木晩田遺跡発掘調査年次計画

年次	重点調査		内容確認調査	分布調査	報告書	
	調査課題	調査地				
平成12年度	形成期の集落像の解明	洞ノ原地区西側丘陵	初期整備に伴う確認調査	全域		
平成13年度				松尾頭地区		
平成14年度	最盛期の集落像の解明	妻木山地区	妻木山地区	妻木山地区	洞ノ原	
平成15年度			妻木山地区	松尾頭・松尾城地区		
平成16年度			松尾頭地区	妻木新山地区		
平成17年度	首長層居住域の実態解明	松尾頭地区	松尾頭・松尾城地区	仙谷地区	妻木山	
平成18年度			妻木新山地区			
平成19年度	松尾頭地区の集落像の解明	松尾頭地区			松尾頭	
平成20年度						
平成21年度						
平成22年度						松尾頭
平成22年度	墳墓域の実態解明	仙谷1号墓	妻木新山地区	B		
平成23年度		墳墓の存否および広がり を確認するための調査	仙谷地区	T	B	
平成24年度		※H23年度の調査を踏 まえて決定			T	B
平成25年度	出現期、展開期における集落 像の解明	妻木新山地区		B	T	
平成26年度				T	B	
平成27年度 以降	※調査成果を踏まえて調査地を検討したうえで、継続的に発掘調査を実施。			(継続)		

※太枠内：谷部、斜面部を対象とするボーリング、トレンチ調査。同一地点において再調査を継続して行う。
B=ボーリング調査、T=トレンチ調査

第3表 妻木晩田遺跡発掘調査委員会委員名簿

氏名	役職名	備考
渡邊 貞幸	島根大学法文学部教授	委員長
酒井 龍一	奈良大学文学部教授	副委員長
高島 忠平	佐賀女子短期大学学長	
和田 晴吾	立命館大学文学部教授	
深澤 芳樹	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 上席研究員	

指導助言機関：文化庁文化財部記念物課、米子市教育委員会、大山町教育委員会